

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	松宮 幹雄	法人・事業所の特徴	小規模多機能ではコロナ禍での利用者の安心安全を第一と考え行動している。大人数での行動が出来ないからこそ今までとは違うことを模索しながら利用者一人一人と関わっていく。運営推進会議が計画どおりに開催出来ない中今まで以上に送迎時の家族との会話だけではなく、メールや電話等のコミュニケーションを大切に意見や要望を聞き取り共有し利用者対応に活かしている。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 鯖江きらめきハウス	管理者	内村 真人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人数での行事ではなく。利用者の思いに合わせて個別や少人数で外出を行っていく。</li> <li>・ミーティングでの共有を継続してきらめき内での活動や外出の仕方など幅を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーティングで意見を出し合い計画情報を共有し、個々の利用者が何をどうしたいのか皆で考え適切なケアができるようにしている。</li> <li>・感染対策に十分注意し県内感染が収まった事を確認し、職員と1対1での外出や4人までの外出に出掛けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料ではよく話し合われていると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きらめき内での活動に幅を持たせ利用者一人一人がやりたいことを見つけられるようにサポートする。</li> <li>・ミーティングで話し合われたことは記録に落とし共有し同じケアができるようにする。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の方との接触の制限がある中で利用者が外に出て楽しみを得る機会を減らさないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内のコロナ感染の収まりを見ながら外出やドライブに出かけている。感染症対策をとっているお店を選定し、人混みを避け近場に散策に行くなど、感染対策には十分注意して実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善計画への取り組みや事業所の環境など評価して頂いていると感じることが出来た。</li> <li>・コロナの影響で「何をしたらいいか皆が分からない」などの意見もあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の写真や製作物を廊下に張り出し充実感や楽しみを持てるように工夫する。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部との交流について感染症対策を取り、サロンの開催や地域行事の参加を試みていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に一度開催されているサロンは地域の方にも喜んで頂いているが感染状況によってはやむを得ず中止となることもあった。</li> <li>・月に2回の小学生の見守り隊活動に参加し、地域の子供たちと交流を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で地域の行事なども無くなり近所の関わりも薄れてきた。</li> <li>・サロンを楽しみにしていたが中止になり残念。</li> <li>・職員さん挨拶がしっかり来ています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方と交流ができるように案を検討しておく。</li> <li>・きらめき応援団を増やす。</li> </ul>

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の声を聴いて少人数での外出を行う。</li> <li>・感染症対策として接触を出来るだけ少なくなど工夫しながら取組みを行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行ってみたい」「食べたい」等の声を聴き、県内の感染が収まっている時期に職員が下見に行くなど感染症対策を行っているお店又は場所に行くことが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コロナ禍では難しいと思う」と言う意見があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の「～が好き～」「～したい」の気持ちを実現できるように思いに寄り添っていく。</li> <li>・本人の生活に合わせたサポートができるように地域資源を知る。</li> </ul>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議開催のやり方を見直し、リモート等他の手段でも参加できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内のコロナ感染状況もあり、施設の貸し出しや集まるのが難しく実施ができなかった。また、リモート環境が整わず見送りとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議に参加したかったが残念です。こんな状況では難しいですね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リモートで参加できるような環境作り。環境が整わない場合でも家族や地域の声をアンケートなど利用して集める</li> <li>・職員みんなで考えて作る。</li> </ul>
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練として地震だけでなく、豪雨による洪水避難の訓練も実施し、有事の際に適切な対応ができるように取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の皆さんの協力を得て、洪水避難の訓練を実施することができた。これからも有事を想定し、安全安心のため継続して実施していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加したことが無いので分かりません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時地域との連携が大切 防災訓練の取り組みを地域の多くの方に知らせ施設に興味を持っていただく第一歩にする。</li> </ul>